

# 感染症対策・



## 調査センター



2026(令和8)年2月1日

第15号

編集  
発行

名古屋市保健所  
感染症対策・調査センター

〒463-8585

名古屋市守山区桜坂四丁目207番地

電話 737-3712 FAX 736-1102

Mail a7373711-07@kenkofukushi.city.nagoya.lg.jp



ホームページ



X(旧Twitter)



YouTube



## 野生動物の市街地への侵入と感染症



全国でたくさんのクマ目撃情報が報告されています。市街地への侵入も増えて、中には命を失うほどの事故例も報道されています。また、クマ以外にもイノシシやシカなどの野生動物の行動範囲も広がっているようです。これらの野生動物に付いてマダニも生息範囲を広げているため、マダニが媒介する感染症に対するリスクが高まっています。



## 日本で発生があったマダニ媒介感染症

日本国内で発生があったマダニ媒介感染症の主な例をまとめました。

疾患の名称	病原体	主な症状
日本紅斑熱	リケッチア	頭痛、発熱、倦怠感、発疹、刺し口
ライム病	ボレリア属の細菌	遊走性紅斑、顔面神経麻痺
マダニ媒介回帰熱	ボレリア属の細菌	発熱、頭痛、筋肉痛(風邪様症状)
ダニ媒介脳炎	ダニ媒介脳炎ウイルス	発熱、頭痛、悪心、神経症状、髄膜炎
重症熱性血小板減少症候群(SFTS)	SFTSウイルス	発熱、倦怠感、消化器症状、血小板減少、白血球減少



## ネコやイヌもSFTSを発症します！

ネコやイヌもSFTSを発症します。症状は発熱や嘔吐などヒトと似ています。ネコは重篤になりやすいようです。

野山に行った後、ネコやイヌの体にマダニがついていないか、よく見てあげましょう。



## 予防法は？

マダニ媒介感染症の予防は、マダニに刺されないことが一番です。①肌を露出しないよう服装に気を付ける ②忌避剤を使用する ③野山から帰ったら自分の体にマダニがついていないかよく確認しましょう。

## もし、マダニに刺されてしまったら

マダニに刺されてしまったら無理に引き抜こうとせず、医療機関でとってもらいましょう。マダニに刺されたら数週間程度は体調の変化に注意し、発熱等の症状があらわれた場合は医療機関で診察を受けて下さい。

▶(参考)『マダニに咬まれないように注意しましょう』

URL:<https://www.city.nagoya.jp/kenkofukushi/eisei/1014926/1015240/1015241/1015250.html>



## マダニの驚くべき能力



マダニは動物の血液が唯一の栄養源です。吸血によってのみ成長・生殖が可能になります。マダニは広範囲に活動せず、草むらで動物等の吸血源が来るのを待ち伏せしています。千載一遇のチャンスを狙う為に、1cmに満たない小さな体に様々な能力を備えています。



### ハーラー器官

動物から発せられる化学物質を感知する役割をします。第1脚の先端にあります。



ハーラー器官をかざして歩行するマダニ

### 口下片

ギザギザの歯が並び、皮膚に刺さり吸血します。さらにセメント物質で皮膚内に固着します。これにより吸血中のマダニを取り除くのは困難です。

### 爪

すべての脚の先端に爪があり、ガラス面でもへばり付くことができます。



ガラスに付着するマダニ



脚先端部の爪



下から見た口下片



正面から見た口下片



セメント物質が付着した口下片



## センターからのお知らせ



### 新型インフルエンザ実地訓練を実施しました！

2026年に愛知・名古屋で開催されるアジア・アジアパラ競技大会に備え、市内の病院と連携して訓練を実施しました。[令和7年11月4日]

訓練は、新型インフルエンザ疑いの患者さんを、診察を受けた病院から医療措置を受けられる病院へ移送するという想定で行われました。訓練は順調に行われましたが、実際に行ってみることで色々な気づきもありました。万が一、感染症が発生した時にはしっかりと役立てていきたいと思えます。

これからも市民の生命や健康を守るため、健康危機管理対応力の強化を図っていきます。



訓練の様子はテレビで報道されました。

『感染症対策・調査センターだより』は、名古屋市公式ウェブサイトで創刊号からご覧いただけます。「感染症対策・調査センター」で検索していただくか、右のQRコードをご利用ください。

